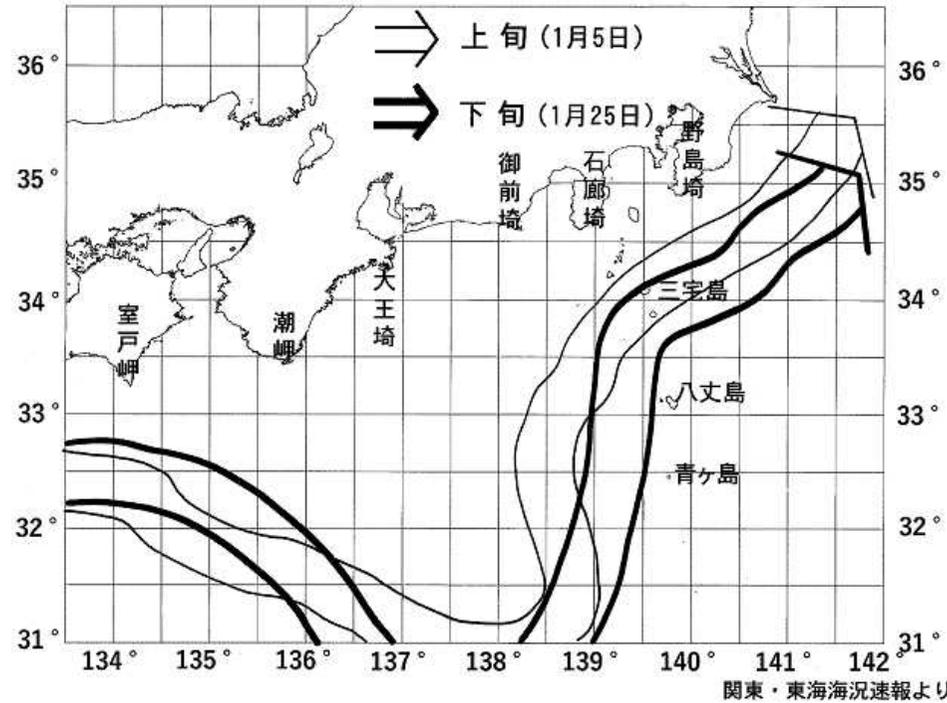


漁海況月報

令和6年1月1日

No. 1 ~1月31日

静岡県水産・海洋技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



関東・東海海況速報より

1月定地水温の旬平均値(°C) (下段は平年値*からの偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	16.0	16.3	16.2	17.2	16.9	15.7
	0.7	0.2	0.5	1.6	1.5	0.4
中旬	15.3	15.6	15.5	16.8	16.5	16.0
	0.5	0.1	0.2	1.7	1.6	1.1
下旬	15.3	15.9	15.7	17.3	16.8	15.9
	0.9	0.9	0.9	2.7	2.5	1.4
月	15.5	15.9	15.8	17.1	16.7	15.9
	0.7	0.4	0.6	2.0	1.9	1.1

*平年値：過去30年(平成3年~令和2年)平均値

【黒潮流路】

1月を通じてA型で、潮岬沖で大きく離岸した後、上旬、下旬は三宅島まで、中旬は石廊崎沖まで北上する流路となった。

上旬は潮岬沖で大きく離岸し、遠州灘沖31.0°N付近から三宅島付近34.0°Nまで北上した後、三宅島付近を通過して北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮北上部から熊野灘、遠州灘、駿河湾及び大島東西水道に向けて見られた。

中旬は潮岬沖で大きく離岸し、遠州灘沖31.0°N付近から石廊崎沖34.0°Nまで北上した後、三宅島付近を通過して北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮屈曲部から熊野灘、遠州灘、駿河湾及び大島西水道に向けて見られた。

下旬は潮岬沖で大きく離岸し、遠州灘沖30.5°N付近から三宅島付近34.0°Nまで北上した後、三宅島付近を通過して北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮屈曲部から遠州灘、大島西水道に向けて見られたほか、一時的に駿河湾に向けて見られた。

【沿岸域水温】

上旬は稲取、焼津で「平年並」、伊東、下田で「やや高め」、雲見、沼津で「高め」であった。中旬は稲取、下田で「平年並」、伊東、焼津で「やや高め」、雲見、沼津で「高め」であった。下旬は伊東、稲取、下田、焼津で「やや高め」、雲見、沼津で「極めて高め」であった。

【竿釣カツオ】

1月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げはなかった(前年同月の水揚げなし)。

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は109.8トンで、前年(231.2トン)の47%、平年(258.2トン)の43%と低調であった。また、1か統当たりの水揚量は15.7トン(前年:33.0トン、平年:36.9トン)であった。水揚量の多い漁場は、古網漁場(41.3トン、マルソウダ、マイワシ、さば類)、次いで伊豆山漁場(25.2トン、マルソウダ、マアジ、さば類)であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁(表)のとおりで、マルソウダは43.3トンで、前年比69%、平年比10.6倍で、前年は下回ったが昭和57年以降では2番目に多い漁獲量であった。マイワシは18.3トンで、前年比29%、平年比45%であったが、水揚げされたのは1月30日、31日の2日間のみであった。さば類は10.6トンで、前年比23%、平年比18%であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは5.7トンで、前年比48%、平年比41%、ゴマサバは4.9トンで、前年比14%、平年比10%であった。マアジは8.3トンで、前年比3.4倍、平年比1.2倍であった。スルメイカは6.4トンで、前年比23%、平年比12%であった。

多獲された魚種の主な漁場は、以下(表)のとおりで、各漁場の水揚量の割合は、マルソウダでは古網漁場が39%(16.8トン)、伊豆山漁場が25%(10.8トン)、マイワシでは古網漁場が67%(12.3トン)、北川漁場が30%(5.5トン)、さば類では伊豆山漁場が35%(3.7トン)、古網漁場が27%(2.8トン)、マアジでは伊豆山漁場が50%(4.2トン)、古網漁場が34%(2.8トン)、スルメイカでは富戸漁場が49%(3.1トン)、古網漁場が16%(1.0トン)であった。

*平年：昭和57年~令和4年の平均値

多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
マルソウダ	43.3	0.69	10.62	古網、伊豆山
マイワシ	18.3	0.29	0.45	古網、北川
さば類	10.6	0.23	0.18	伊豆山、古網
マアジ	8.3	3.42	1.16	伊豆山、古網
スルメイカ	6.4	0.23	0.12	富戸、古網

[サバたもすくい・棒受網]

小川港所属の棒受網漁船は月を通じてたもすくい漁業主体で操業し、漁場は月を通じて大島千波に形成された。水揚量はマサバ1トン(前年同月16%)、ゴマサバ109トン(前年同月比26%)であり、1隻当たり水揚量はマサバ0.04トン(前年同月比27%)、ゴマサバ7.8トン(前年同月比44%)であった。

1kgあたり平均単価は、マサバは245円で前月(237円)並であったが、前年同月(328円)を大きく下回った。ゴマサバは217円で、前月(216円)、前年同月(212円)並であった。

漁獲物の体長組成は、ゴマサバは35cmにモードを持つ単峰型を示した(マサバのデータ無し)。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業) 水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		平均単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R6年1月上旬	0	7	1	1	0.0	6.9	126	212	大島千波
中旬	0	57	3	5	0.0	11.4	216	210	大島千波
下旬	0	45	4	8	0.0	5.7	277	228	大島千波
R6年1月計	1	109	8	14	0.0	7.8	245	217	大島千波
R5年1月計	4	424	14	24	0.2	17.7	328	212	大島千波・利島
R4年1月計	90	379	14	25	3.6	15.2	126	124	大島千波・利島

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため、月計と一致しないことがある。

*表中の「-」は水揚げがなかったことを示す。

[シラス船曳網]

県内7港における1日1か統当たりの水揚量は、遠州灘(新居、舞阪、福田、御前崎)が181kg、駿河湾(吉田、用宗、由比)が154kgであった。平均水揚量は164kgで前年同月(174kg)の95%、
 平均同月(過去5か年平均:125kg)の1.3倍であった。また、総水揚量は46.5トンで前年同月(52.6トン)の88%、
 平均同期(26.8トン)の1.7倍と前年を下回り、平均を大きく上回った。平均単価は963円/kgで前年同月(1,821円/kg)の53%、
 平均同月(1,397円/kg)の69%で前年、平均を大きく下回った。

7港のシラス水揚量

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均水揚量(kg/統)	平均単価(円/kg)
遠州灘	新 居	0.0	0	0	-
	舞 阪	9.7	2	42	231
	福 田	5.0	2	43	116
	御前崎	4.2	2	19	221
駿河湾	吉 田	7.5	3	76	98
	用 宗	18.4	3	65	283
	由 比	1.8	5	38	47
R6年1月計	46.5	17	283	164	963
R5年1月計	52.6	23	303	174	1,821
R4年1月計	27.2	14	223	122	811

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

*平均:過去5か年(平成31~令和5年)平均値

[まき網(いわし類)]

マイワシの水揚量は、沼津港では41.1t(前年同月47%、
 平均同月比18%)、伊東港、静浦港、小川港では水揚げがなかった。
 カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港ともに水揚げがなかった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは18.3トン、カタクチイワシは水揚げがなかった。
 *平均:過去5か年(平成31~令和5年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

1月 9日 ~	1月 10日	地先定線観測調査	(2日間)
1月 16日 ~	1月 17日	さば類撒餌調査	(2日間)
1月 18日 ~	1月 19日	サクラエビ音響調査	(2日間)
1月 22日		海中マイクロプラスチック粒子観測調査	(1日間)
1月 23日		海中マイクロプラスチック粒子観測調査	(1日間)
1月 25日		いわし類卵稚仔分布調査	(1日間)
1月 29日 ~	1月 30日	さば類撒餌調査	(2日間)

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と
 関東・東海海況速報を見ることができます。

